

関東リーグ 昇格・復帰!!

サッカー部 FOOTBALL

神奈川リーグを全勝で優勝!!



4月27日(土)〜10月26日(土)まで開催された2019年度神奈川大学サッカーリーグ(以下県リーグ)にて全勝優勝を果たし、関東大学サッカーリーグ2部への昇格戦に進出したサッカー部。11月23日(土)に開催された第52回関東大学サッカー大会昇格決定戦で山梨学院大学に2-1で勝利し、関東リーグ2部への昇格・復帰が決定しました。

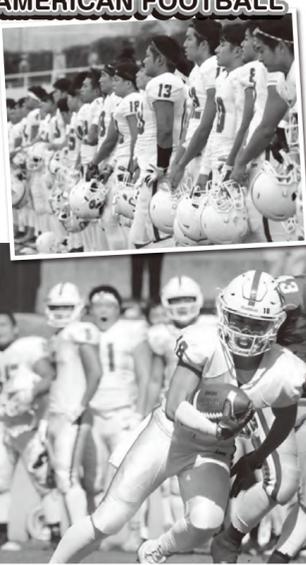


昇格戦に向けて「緊張感もあるが、気持ちよくプレーできればどんな相手にも勝てるチームだと確信している。目標を達成できるように、チーム全体で戦っていき」と熱く語ってくれていた白井達也(経済・4年)。見事な勝利で、関東リーグ2部への昇格

一年ぶりの復帰を決めてくれた。心身ともに成長しているサッカー部は、サッカー以外の活動「Footballer」を大事にしている。県リーグ戦にも春合宿先の千葉県鋸南町へ災害ボランティアを行うなど、積極的に活動を行っている。このように一つ一つの活動がサッカー部の原動力となっているのだらう。今後も成長していくサッカー部の活躍に期待したい。

アメリカンフットボール部 AMERICAN FOOTBALL

TOP8に回りで躍進!!



9月6日(金)〜12月1日(日)に開催された2019年度関東学生アメリカンフットボールリーグ戦(リーグ戦)1部BIG8で戦っているアメリカンフットボール部A.T.O.M.s。創部初の1部TOP8を目指している。坂本アントニー・マウネイ(主将・現ビ・4年)は「春季オープン戦後は、リーグ戦に照準を合わせて練習に取り組んできた。相手チームを人念に対策してきたので、初戦の桜美林大学に勝利を取ることができた。2戦目は、強豪校である日本大学であり悔しくも敗戦したが、引けを取らずに戦える事がわかり自信となった」と話してくれた。毎試合を通じてチームの課題を得られるBIG8の戦いに、A.T.O.M.sは更に成長しているようだ。

現在の戦いの舞台である1部BIG8は強豪校がひしめくリーグだがどのチームよりも強い。TOP8昇格には常に負けが許されない背水の陣なので、目の前の練習・試合をしっかりとやりきるしかない」と熱い思いを語ってくれた。

最後に「毎試合ごとにスタンドを見渡すと応援してくれる方が増えている。その人達の為に感謝の気持ちを持って、勝利という形で返したい」と話してくれた。悲願のTOP8昇格を目指し、ひたむきにアメフトに取り組むA.T.O.M.sの活躍に期待したい。

山岳部 ALPINE/CLIMBING

世界で戦う神大クライマー!!



日本のトップクライマーが集まる山岳部クライミング部門は、今年も好成績を残している。

緒方良行選手(人科・4年)は5月25日(土)・26日(日)に開催されたスポーツクライミング第2回コンバインド・ジャパノカップにて、総合5位入賞。8月10日(土)・21日(水)開催されたIFSCクラミング・世界選手権2019(以下世界選手権)では、ボルダリング部門で出場し14位の成績を取った。緒方選手は「今シーズンはボルダリングの調子が非常に良く、世界選手権は予選一位で通過することが出来た。しかし、準決勝では調子を發揮出来ず、14位で終わってしまった」と振り返る。緒方選手は、過去に世界チャンピオンにも輝いているので、メンタルコントロールで充分世界が取れる実力は兼ね備えている。今後も活躍が楽しみな選手である。



スケート部スピード部門 SPEED SKATING

インカレ男子・女子共に総合優勝!!



10月26日(土)・27日(日)に開催された第92回日本学生氷上競技選手権大会(以下インカレ)にて、男子スピード部門(以下インカレ)にて、男子チームは、学校対抗男子5000mで齋藤駿選手(人科・2年)が2位入賞。女子チームは、学校対抗女子5000mで吉田風歩選手(人科・1年)が優勝するなど好成績を残し、男子・女子共に総合優勝に輝いた。

男子チームは「最後の大会では、しっかりと調整して目指していたが、あと一歩で優勝を逃した悔しい思いを話してくれた。来年こそは、インカレで男子・女子総合優勝を目指したい」と熱い思いを話してくれた。世界で活躍する選手たちを今後も応援していきたい。

インカレに初出場した吉田選手は「学校対抗5000m・1000mで2冠を目指していたが、達成できなかった。レース終盤にスピード差を感じたので、今後の課題となった。今後は、インカレにしっかりと調整して、来年こそは、インカレで男子・女子総合優勝を目指したい」と熱い思いを話してくれた。世界で活躍する選手たちを今後も応援していきたい。



男子バスケットボール部 BASKET BALL

1部残留決定!! 目指すはインカレ優勝!!



8月24日(土)〜11月10日(日)まで開催された第95回関東大学バスケットボールリーグ戦(以下リーグ戦)1部リーグで、1部残留が決定した男子バスケットボール部。12月9日(月)・15日(日)に開催される第71回全日本大学バスケットボール選手権大会(以下インカレ)に出場も決まり躍進中だ。

河上大彦主将(国際経営・4年)は「リーグ戦は、8位以内・10勝以上を目標としていたが達成は出来なかった。苦しい状況でも1部残留が出来たのは、正しいと信じたことをやり続けてきたからと感じている。来年最後は「シーズン初めに目標としていたインカレ優勝に向けて、泥臭いハードワークなプレーで一戦一戦全力を出し切っていく。必ず優勝したい」と熱い思いを話してくれた。今後も男子バスケットボール部の活躍から目が離せない。



度以降も1部リーグで戦い続けて欲しい」と話してくれた。男子バスケットボール部の持味は、泥臭いと言われる程の諦めないプレーである。この精神を持って戦ってくれば、今後も1部リーグで活躍してくれるだろう。

インカレについて「リーグ戦で勝てなかった大学が多く出場している為、リベンジが出来最後の機会と考える。インカレでは集大成となる試合を見せつけて欲しい。」

最後に「シーズン初めに目標としていたインカレ優勝に向けて、泥臭いハードワークなプレーで一戦一戦全力を出し切っていく。必ず優勝したい」と熱い思いを話してくれた。今後も男子バスケットボール部の活躍から目が離せない。

マネージャー取材日記

今回のマネージャー取材日記は、学生に人気のスポーツの一つである女子バスケットボール部だ。マネージャーの生方穂乃香さん(国際経営・3年)は、高校時代はバスケットボール部の選手として活躍し、大学入学後、選手からマネージャーに転向することになった。マネージャーの役割は、選手をサポートすることだ。一度は部を離れることも考えたが、大好きなバスケットボールから離れたくないから、マネージャーになったという。マネージャーも果敢とる。



女子バスケットボール部
マネージャー 生方穂乃香

マネージャーの仕事内容は、練習での声かけ、その他の環境整備など日頃の活動のサポートから、部の会計処理、各種大会の選手登録・エントリーなど事務的なことまで行う。マネージャーとして聞いてみると、選手や監督と積極的にコミュニケーションを取り、チーム全員が部活に集中しやすい環境を作っているという。最後に個人の目標を聞いてみると、選手や監督、周りの支えで、自分自身も成長したいと話してくれた。

指導者インタビュー



アメリカンフットボール部
監督兼ヘッドコーチ 輪島 章司

今回の指導者インタビューは、アメリカンフットボール部の輪島監督兼ヘッドコーチ(人科)に話を聞いた。

輪島監督兼ヘッドコーチは、神奈川大学OBでもあり在学中はアメリカンフットボール部A.T.O.M.sの選手として活躍。卒業後は、社会人チーム「富士通フロンティアーズ」での選手生活を経た後、社会人アマフトチームや小・中学生が行うフットボールのコーチを務めてきた。現在はA.T.O.M.sには2014年4月から監督として就任し、2016年4月から監督としてチームを率いている。

学生の成長を第一に、技術力の向上より人間力の向上を大事にしているという。人間力の向上は、選手自身が考える力を身に付け、アメフトへの取り組み、チームの在り方を常に意識することである。大学4年間のアメリカンフットボール部A.T.O.M.sでの活動を通して、技術力だけではなく、社会で活躍できる人材の成長と、更には企業側からA.T.O.M.sの人材が欲しいと言われている。



課外活動団体へのご支援をお考えの皆様へ
神大スポーツ・文化振興奨励金

QRコードからアクセス



インカレ女子総合 2年連続準優勝!! 8年連続 シード権獲得!



水泳部
SWIMMING
SEIKO

9月6日(金)〜8日(日)に開催された第95回日本学生選手権水泳競技大会(以下インカレ)にて、女子水泳チームは、古林穂奈選手(経済・4年)の100m背泳ぎ優勝、200m背泳ぎ2位を筆頭に好成績を残し、歴代最高点で2年連続の準優勝に輝き、8年連続でシード権を獲得した。

インカレで活躍をみせた古林選手は「昨年のインカレから、最後のインカレは優勝を掲げ練習に取り組んできた。多くの方のサポートとご声援があり、自己ベスト更新して100m背泳ぎで優勝することができたので、今後も結果で恩返ししたい」と熱く語ってくれた。女子チームの楯珠実新主将(経済・3年)は「昨年よりも得点を伸ばすことができたが、目標の日本一になれなかった」と悔しさを語る。男子チーム樋口陽太新主将(自治行政・3年)は「男子チームは、インカレのような全国大会でベストを出し切ることが出来ていない。ここが来期の課題である」と話してくれた。インカレを終え男子・女子共に、更なる成長を臨んでいる姿が

印象的であった。シーズンを終え樋口新主将は「より良いチームにする為に、今シーズンは環境創りに専念した。楯新主将は、マネージャー経験もあるの、違った視点からチームをみる事ができる」と話した。神奈川大学水泳部では、マネージャーから主将になるのは珍しく、今シーズンは部全体で更なる成長が見込めそう。

最後に「今シーズンの目標は、男子チームがインカレでリレーの決勝レースへの出場。女子チームがインカレ日本一を目指す。またオリンピックイヤーであるので、選考レースに食い込める選手を多く輩出したい」と両新主将が熱く語ってくれた。今年も水泳部の活躍から目が離せない。

9月6日(金)〜8日(日)に開催された第95回日本学生選手権水泳競技大会(以下インカレ)にて、女子水泳チームは、古林穂奈選手(経済・4年)の100m背泳ぎ優勝、200m背泳ぎ2位を筆頭に好成績を残し、歴代最高点で2年連続の準優勝に輝き、8年連続でシード権を獲得した。



8月20日(火)〜23日(金)に開催された文部科学大臣杯令和元年度全日本学生選手権(以下インカレ)、グレコローマンスタイル72kg級にて、北條良真選手(国際経営・3年)が優勝。そしてグレコローマンスタイル87kg級では、奈須川良太選手(国際経営・2年)が優勝し、大会2連覇と最優秀選手賞を手にした。日本学生レスリング界の個人戦最高峰大会で、今年も神奈川大学レスリング部が大活躍だ。

北條選手は「練習してきた先制で点を取り、後半に守り切る形ができた。優勝したこと自信が湧いたが、あくまでも通過点と振り返る。北條選手は、日々練習前にビデオで強豪選手の技を観察し、レスリングに対して研究熱心で真摯に取り組んでいる。心からレスリングを愛しているのだろう。奈須川選手は「インカレ2日前まで、世界ジュニア選手権大会に出場していた為、コ

8月20日(火)〜23日(金)に開催された文部科学大臣杯令和元年度全日本学生選手権(以下インカレ)、グレコローマンスタイル72kg級にて、北條良真選手(国際経営・3年)が優勝。そしてグレコローマンスタイル87kg級では、奈須川良太選手(国際経営・2年)が優勝し、大会2連覇と最優秀選手賞を手にした。日本学生レスリング界の個人戦最高峰大会で、今年も神奈川大学レスリング部が大活躍だ。

北條選手は「練習してきた先制で点を取り、後半に守り切る形ができた。優勝したこと自信が湧いたが、あくまでも通過点と振り返る。北條選手は、日々練習前にビデオで強豪選手の技を観察し、レスリングに対して研究熱心で真摯に取り組んでいる。心からレスリングを愛しているのだろう。奈須川選手は「インカレ2日前まで、世界ジュニア選手権大会に出場していた為、コ



華麗な踊りと音楽で、観る人を魅了するフラメンコをみなさんはどこまでご存知でしょうか。今回の文化系だよりはフラメンコ部ロスガトスのウハオ部長(現ビ・4年)に話を聞いた。

同部の特徴として、部員のほとんどが未経験であり、大学から始めた者が多いことだ。ウ部長は「日本の文化とは異なる、派手で華麗なダンスや音楽、そして周りを包み込む独特な雰囲気」に魅せられるという。実際に見学した方は、「楽しそうだからやってみよう」と興味を持ち、体験レッスンを行った上で入部に至るそうだ。ウ部長は「みんな初心者からのスタートなので、フラメンコを好きになってくれるかわからない難しさはある。ダンスはもともと、独特なリズムに慣れる事が出来るかなど大変なこともあるが、ゲーム形式で踊ったり、好きになってもらう

華麗な踊りと音楽で、観る人を魅了するフラメンコをみなさんはどこまでご存知でしょうか。今回の文化系だよりはフラメンコ部ロスガトスのウハオ部長(現ビ・4年)に話を聞いた。

同部の特徴として、部員のほとんどが未経験であり、大学から始めた者が多いことだ。ウ部長は「日本の文化とは異なる、派手で華麗なダンスや音楽、そして周りを包み込む独特な雰囲気」に魅せられるという。実際に見学した方は、「楽しそうだからやってみよう」と興味を持ち、体験レッスンを行った上で入部に至るそうだ。ウ部長は「みんな初心者からのスタートなので、フラメンコを好きになってくれるかわからない難しさはある。ダンスはもともと、独特なリズムに慣れる事が出来るかなど大変なこともあるが、ゲーム形式で踊ったり、好きになってもらう

華麗な踊りと音楽で、観る人を魅了するフラメンコをみなさんはどこまでご存知でしょうか。今回の文化系だよりはフラメンコ部ロスガトスのウハオ部長(現ビ・4年)に話を聞いた。



神奈川大学で
フラメンコの世界へ
ロスガトス
フラメンコ部

文化系だより vol.23